

「想像力の大切さ」

240116

集団避難を検討している輪島市、珠洲市、能登町の約850名の中学生やその家族の心中を思うと胸が苦しくなります。約2か月もの期間、親元を離れて生活することへの不安は計り知れません。集団生活が余儀なくされ、学校生活の延長となり、個人の自由が保障されない生活環境。それでも、子も親も避難生活を選択するほどの被災現場の現状。想像することができないほどの過酷な状況の中にいることが考えられます。一方で集団避難をすることを選択しない中学生も多くいます。この苦しい状況を家族と共に過ごし、家の片付けを手伝いたいという記事も見ました。健康面で薬等の管理に不安があるために残ることを選んだという苦渋の決断をした家族もいると報道されていました。

それぞれの判断をした、それぞれの家庭（子ども・親）がどんな気持ちで離れている家族のことを思い、これからの生活をしていくのかを想像することは、今、恵まれた環境に置かれている私たちには難しいことです。しかし、たとえ一瞬でも、そんな人たちを頭に浮かべ、考えることはとても大切なことなのではないかと思っています。

また、「中学生の集団避難」という記事に触れるたびに私の胸に刺さるのは、それを支えるために行動を共にする教職員のことです。状況が状況なだけに、仕方ないとは思いますが、教員の立場で考えたとき、2ヶ月間、24時間の集団生活を指導することの責任の重さ、過酷さは計り知れません。ましてや、ご自身も被災された方もお見えになるであろうし、そうでなくても不安な気持ちで過ごすであろうご家族を残していくことを思うと言葉になりません。それでも、それに立ち向かっていかれる教職員みなさんに感謝と尊敬の念を抱かずにはられません。自分だったら、幸中の先生方をお願いをすることになったらと想像せずにはられません。まさに他人事ではないと思っています。

今は、想像することしかできないけれども、想像することを止めてしまっただけではないと思っています。**想像力**が支援の第一歩となると共に、自分たちを襲うであろう災害にから家族を守るための行動につながっていくのだと思います。

そして、この想像力は日頃の生活のなかでも、相手を**慮（おもんばか）**る上で、良好な人間関係を築く上で鍵となる力ではないでしょうか。